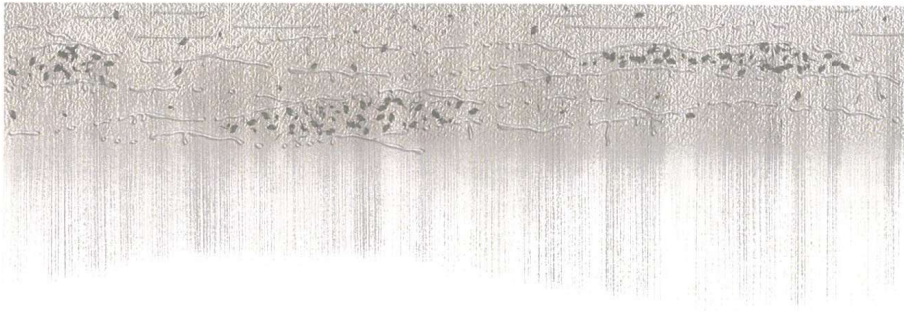


作品の設置方法を選んで、チェックをつけてください

- 台座置き 壁付

※台座置き作品は台座のサイズも分かるように記入すること
※台座のサイズは幅 600 × 奥行 600 × 高さ 1000mm 以内

作品 および 設置イメージ・説明・制作方法

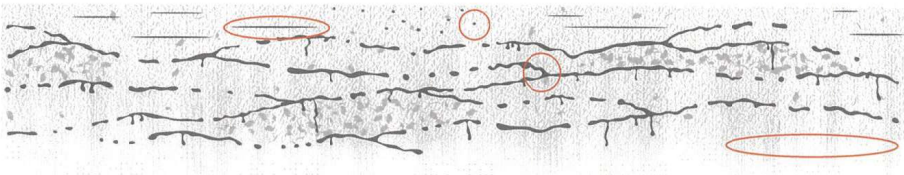


サイズ: W3500 × D50 × H1000mm
素材: 泥、布、透明樹脂
重量: 7kg

<制作方法>

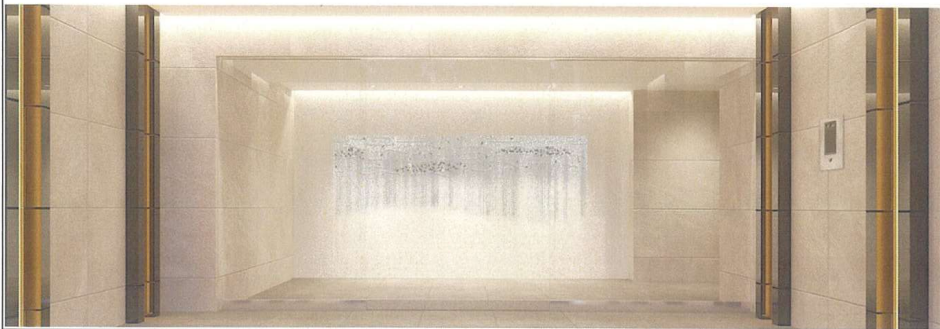
- ①白布を泥染する
- ②布の下半分の横糸を抜き、端を波打つよう整える。
- ③上半分の布に、瓦鹿の子絞りを施し凹凸を出し、布硬化剤により凹凸形状を硬化する。
- ④スケッチの位置に葉の模様を染め上げる。
- ⑤透明樹脂で山の輪郭作る。(凹凸に沿うように配置し水の流れを表現する)

泥染をすることで基となる地面の色合いを表現します。絞り染の通常の手順ではなく、絞った布を広げた形状に対し後から模様をつけるという手順をとり、雨の日に地面に着く葉を表現します。それぞれの透明樹脂の頭は水滴の表面張力による形状に近づけるよう仕上げます。壁との設置は作品背面の上部に横長の器具を取り付け設置します。これは作品の形状を維持する役割も持ちます。主素材は布であるため、作品は大きさの割に軽く長期間の設置に適しています。



<山々の表現>

前後の山が重なる部分のY字形状は忠実に表現し、遠くに見える山々や空を飛ぶ鳥は最小限の水滴で表現することで、ランダム性を維持しつつも全体をみると山々の形状が浮かび上がるよう工夫しています。葉の深線は一部が山のようにも見えるよう密度に強弱をつけています。布の上下の塊は水平線を表現し、下に垂れる糸とさらに下の余白になだらかな水を想像させます。



作品名	水余水		作品NO.	34
素材	泥、布、透明樹脂		想定重量	7 kg
作品サイズ	横幅 3500	×	高さ 1000	× 奥行 50 (単位: mm)

作品コンセプト

ある山水図を目にした。左端にただの横線が、右端に橋が描かれ、中央に大きな余白がある単純な襖絵。全体を眺めると横線は船であり、中央の大きな余白は海だと気付いた。本作品は水を書かずして余白に水を想起させるこの絵が元になっている。この作品では余白を作るための具体物自体が水(透明樹脂)であり、リアルな水より何も無い部分の方が水に見えるという逆転した表現を目指した。一部をみると地面の凹凸に溜まる水と張り付いた葉に見えるが、全体を眺めると山々の輪郭が浮かび上がり、下部の何も無い部分が水平線から広がる湖にも海にも見える。同時期、雨が続く日々、ふと足元をみると地面の様々な形に沿って水が溜まっていた。地面には小さな水器がたくさんあるのだと感じた。地面に溜まる物をぼんやり見つめると全体で小さな絵を描いているようにも見える。そんな、外にある小さな美しさを外の世界と住居を繋ぐ空間に表現し人々の心を豊かにしたい。

【過去の自分の作品】 ※画像や写真等を配置もしくは貼り付けてください

